

こえにだして

原
杏歌

登場人物

奏（かなで）	15歳。男。主人公。
結（ゆい）	15歳。女。故人。
凧（なぎ）	27歳。男。児童観察保護員。
華（はな）	27歳。女。児童観察保護員。
武（たけし）	33歳。男。孤児院の院長。
モブ1	15歳。男。奏をいじめる。
モブ2	15歳。男。奏をいじめる。
モブ3	15歳。男。奏をいじめる。

○シーン1 道路

結、書類を持って逃げている

武、結を追いかけている

結、武に追い詰められる

結「助け」

武、結の口を塞ぐ

暗転

発声ブザーが鳴る

○シーン2 孤児院 奏の部屋（誰かの家 or 部室 or 合宿所）

奏、寝ている

目覚ましの音が鳴る

奏、目を覚まして飛び起きる

奏、冷や汗をかいて息が荒い

奏、目覚ましを止める

奏、ベッドから降りる

奏、洗面所まで歩いて行く

洗顔と歯磨きの音

奏、洗面所から戻ってくる

奏、テレビをつける

テレビは機械音声

テレビ「警視庁は捜査本部を立ち上げる方針です」

奏、着替え始める

テレビ「速報です。本日未明、大阪府東大阪市にて発声ブザーが鳴ったとの通報がありました」

奏、動きを止める

奏、テレビを見る

テレビ「警視庁はこれを受けて慎重に捜査を進める方針です。発声権がないものが声を出すことは」

奏、着替え始める

テレビ「最大で無期懲役が課せられる非常に罪の大きな行為です。皆様もお気を付けてください」

奏、着替えている

テレビ「皆様は、静かな一日を」

奏、着替え終わる

テレビ「皆様は、静かな一日を」

奏、テレビのリモコンをとる

テレビ「皆様は、静か」

奏、テレビを消す

奏、あくびをしながら扉を開ける

○シーン3 孤児院 廊下（クラセン廊下）

奏、部屋を出る

奏、遠くを見つめる

○回想

結、奏に手を振る

○回想戻り

奏、うつむいてため息

奏、歩き出す

○シーン4 孤児院 食堂（クラ食orレンタルルーム）

大量の机と椅子

子供たちがご飯を食べている

奏、朝ごはんを持って一つの椅子に座る

奏、隣の席をみる

奏、ため息をつく

武、奏の隣に座る

モブ1、それを見ている

モブ2と3、ニヤニヤしている

奏、驚いて武を見る

武「元気か？」

奏、うつむく

武「今回のことはしょうがない。祝福すべきことなんだよこれは」

奏、頷く

武「三日後、また式を行うから、そこで全て忘れてしまいなさい」

奏、頷く

武、立ち上がって出ていく

モブ1、立ち上がる

モブ2と3、ついていく

モブたち、奏の前に立つ

奏、彼らを見上げる

モブたち、鼻で笑ってあとにする

奏、朝ごはんを食べ始める

○シーン5 孤児院 廊下（クラセン廊下）

奏、歩いている

モブ1、後ろから走ってくる

モブ1、奏に追いつく

モブ2と3、奏を取り押さえて外に連れていく

○シーン6 孤児院 屋上（クラセン3テラor7テラ）

モブ1と2と3、奏を殴っている

奏、抵抗もせずに殴られている

黒背景に白文字「もういい」

モブ1、奏を蹴っている

黒背景に白文字「何をしたらって現実が変わらない」

奏、結を思い出す

モブ2、紙に人殺しとかいて奏に押し付ける

奏、首を振る

モブ1、奏の胸倉を掴む

黒背景に白文字「結を返せ」

奏、首を振る

モブ1、奏の胸倉を押して尻餅をつかせる

モブ3、奏の顔に「生きる価値なし」とかく

奏、呆けて涙を流す

モブ3、鼻で笑う

モブ3、ペンを遠くに投げる

○シーン7 孤児院 屋上（クラセン3テラ0r7テラ）

凧（27）と華（23）スーツ姿で歩いている

モブ3が投げたペンが凧の足元に飛んでくる

凧、それに気付く

二人、飛んできた方向を見る

モブたち、奏をいじめている

華、驚いたあと凧を見る

凧、ペンを構えている

華「ちよ」

凧、ペンを投げる

モブ1の頭にあたる

モブ1、頭を抑えて振り向く

凧、にやける

凧「クリーンヒットオ」

華「ちょっと！やりすぎ！」

凧と華、奏の方へ進みだす

凧「本音は？」

華、ガッツポーズ

華「ナアイスコントロール」

凧「だと思った」

二人、奏の方へ走り出す

○シーン8 孤児院 屋上（クラセン3テラor7テラ）

モブ3、奏を殴ろうとする

凧、モブ3の腕を掴んで止める

凧「おらよ。忘れ物だ」

凧、モブ3の腕にペンを無理やり握らせる

モブ3、ペンを下に叩きつける

モブ1と2、耳を抑えている

モブ1と2、不思議そうに耳から手をはなす

凧「ああ、発声ブザーは鳴らないよ。俺たち偉いからさ」

凧、にやりと笑う

凧「だからお前らの人生どうとでもできるんだけど、それでもまだ」

奏、凧の袖を引っ張る

凧、驚いて振り向く

奏、首を横に振る

凧、奏を見ている

華「なんで」

モブたち、一斉に逃げ出す

凧「あ、おい！」

華「ごめんペン借りるね！」

華、ペンを二本拾って投げる

モブ2と3の頭にヒット

凧、ガッツポーズ

凧「ナアイスコントロール」

華、奏にしゃがんで手を差し伸べ、ハンカチを渡す

華「大丈夫？君、誰かに相談は？」

奏、近くに落ちていた紙にペンで「どうせ何をしても変わらない」と書いて華に見せる

華、紙を読む

華、奏を見る

華、奏の手を握る

華、奏の目を見る

華「それでもあがいて信じて頼り続けることには、確かに意味があるんだよ」

少し沈黙

凧、華の肩を叩く

華、振り返る

凧、「今気づいたけどさ」

凧、華に腕時計を見せる

凧「約束の時間から三十分遅れてるかも」

華「えっ」

凧の電話が鳴る

凧「あーっ」

華「やばいやばいごめん行かなきゃ」

華、奏の手をとる

奏、たちあがる

凧、走り出している

華「あいつら一回くらいぶん殴っていいと思うよ。じゃあね！」

凧、立ち止まって振り返る

凧「いつでも相談してくれよ！助けに行くからさ！」

凧、向き直る

二人、走っていく

奏、ハンカチで汚れを拭う

奏、ポケットにしまう

奏、帰っていく

○シーン9 孤児院 執務室（部室）

武、椅子に座って机に肘をついている

武、時計を見る

武、ため息をつく

外からバタバタと足音

武、扉を見る

凧、扉をノックする

凧「すみません」

武「どうぞ」

凧、扉をあけて入る

凧、セーフのジェスチャー

凧「セーフですか？」

武、微笑む

武「全然アウトですね」

華、凧の頭をはたく

華「馬鹿！セーフなわけないじゃん」

華、お辞儀をする

華「申し訳ありません」

武「謝罪は良いんですけどとっとと本題にうつりましょう。適当なところにかけてください」

凧「ども」

華「ありがとうございます」

凧と華、座る

武「では、面談の方をお願いいたします」

凧と華、顔を見合わせて頷く

凧「では、最初に」

凧、足を組む

凧「少年がいじめられていたところを我々見かけまして」

華「とりあえず一時的にかばい、いじめていた方の子供を諭すという措置を取らせていた

だきました」

凧「何か理由に心あたりなどありますか？」

武、驚いた表情

武「いえ、私も初めて知りました。理由も特には……」

凧「そうですか。注意して観察をするようお願いします」

武「はい。ご報告ありがとうございます」

凧「では本題の方に移らせていただきます」

フェードアウト

○シーン10 孤児院 奏の部屋（誰かの家 or 部室 or 合宿所） 夜

奏、ベッドに寝転がっている

奏、寝返りをうつ

○回想 シーン8

華「それでもあがいて信じて頼り続けることには、確かに意味があるんだよ」

凧「いつでも相談してくれよ！助けに行くからさ！」

○回想戻り 同

奏、体を起こす

奏、ベッドからおりる

奏、部屋を出ていく

○シーン11 孤児院 廊下孤児院 廊下（クラセン廊下） 夜

奏、歩いている

○シーン12 道路 夜

凧と華、歩いている

凧、ためいき

凧「クサイな」

華「クサイねえ」

○シーン13 孤児院 執務室前（部室） 夜

奏、執務室をノック

静まり返っている

奏、恐る恐るドアノブを手にかける

奏、ドアをあける

奏、入るのを一瞬ためらう

○シーン12 道路 夜

華「結ちゃんの行方不明、報告しなかったね、あいつ」

凧「あれあ限りなく黒に近いグレーだな」

○シーン14 孤児院 執務室（部室） 夜

奏、恐る恐る部屋に入る

奏、武の机の引き出しが少しあいているのに気付く

奏、書類とノートが目に入る

奏、驚いて手に取る

奏、恐る恐る読み始める

○シーン12 道路 夜

華「どうする？もう少し泳がせる？」

凧「でもあの子がなあ」

華「ああ、昼間の」

○シーン14 孤児院 執務室(部室) 夜

奏、片手で口を抑えて目を潤ませる

奏、思わず手に持っていたノートを落とす

奏、数歩下がって壁によりかかる

奏、両手で口を抑える

奏、力が抜けてしゃがみこむ

○シーン12 道路 夜

凧「恐らく早めに手をうつべきだ。もうあいつには目をつけられているだろう」

華「心配だね。何もないといいけど」

凧「俺らが動くまで無事であることを願うしかないな」

○シーン14 孤児院 執務室(部室) 夜

奏、息が荒くなる

○回想 シーン4

武「今回のことはしょうがない。祝福すべきことなんだよこれは」
武「三日後、また式を行うから、そこで全て忘れてしまいなさい」

○回想 廊下の隅っことか(一人称視点)

結、泣いている

奏、結の肩を叩く

結、微笑む

黒背景に白文字「私は大丈夫だから」

奏、首を縦に振る

○回想戻り

奏、ゆっくりと立つ

奏、拳を握りしめる

結の遺影が飾られている

子供たち、黒い服に身つつんでいる

奏、モブたちという並びで座っている

武、前で立っている

武「結は旅立った。もう彼女はいない。この式典が彼女を思い出す最後の機会だ」

結の遺影

武「この式典が終わったら、彼女はいなかったものとして扱う。これがこのルールだ」

奏、震えている

武「では、彼女を偲ぶ最後の機会として、黙禱」

その場にいる者全員、目をつぶる

少し黙禱

奏、目をあける

奏、結の遺影まで歩いていく

奏、結の遺影の前に立つ

奏、結の遺影を伏せる

武、その音で目を空ける

武「奏、何を」

奏、武を睨む

武「戻りなさい。早く」

奏、拳を握る

奏「(絞り出すような声で)いやだ」

奏、涙目

発声ブザーが鳴り響く

武「やめろ！」

奏「いやだ！！！」

耳を抑える子たち

怯える子たち

モブたち、あっけにとられている

子供たち、逃げ出す

奏、肩で息をしている

武「どうしてこんな馬鹿なことを」

奏「それはこっちのセリフだ！」

武、奏と向かい合う

奏、ナイフを取り出して自分の首にあてる

奏「それ以上近づけば死ぬぞ」

武「やめろ！！」

奏「何を偉そうに」

奏、微笑む

奏「結のいじめを見殺しにして、挙句の果てに脱走しようとした彼女を殺した癖に」

武、目を丸くして驚く

武「な…」

子供たちが全員出ていき、奏と武の二人きりになる

奏「執務室の戸締り、ちゃんとしておけばよかったですね」

武「私としたことが、まあいい」

武、奏に近づきナイフを掴む

武「知られたからにはしょうがない。一人も二人も殺すのも変わらん」

奏、抵抗しない

奏ナレ「ああ、やっぱり腐ってる。誰か、助け」

突然流れるヘビメタ

奏と武、あっけにとられる

奏と武、入口を見つめる

凧「カモフラでーす！！」

凧、武に飛び膝蹴り

奏と武、吹っ飛ぶ

ナイフも吹っ飛ぶ

奏、うつぶせに倒れている

奏「なんで僕も？」

華、やってきて手を差し伸べる

華「死ぬことに抵抗しなかったからじゃない？あと」

華、微笑む

華「助けにきたよ」

奏、笑う

奏「めちゃくちゃですね、でも」

奏、華の手をとる

奏「ありがとうございます」

奏、立ち上がる

凧、微笑んでいる

凧、奏を見る

凧「暴れてみてどうだった？」

奏、笑う

奏「最高でした」

奏、礼拝堂を見渡す

奏「もっと早くからこうしときゃ良かった」

凧、笑う

凧「そりゃあよかった」

凧、武の元へ歩いていく

武「久しぶりですね」

○回想 シーン9

凧「何か理由に心あたりなどありますか？」

武、驚いた表情

武「いえ、私も初めて知りました。理由も特には……」

○回想戻り 孤児院 礼拝堂 (レンタルルームor近くの教会)

凧、武の胸倉を掴む

凧「何が私も初めて知りました、だ嘘つき野郎。元凶はお前だろ」

武「脱走しようとしたのだからしょうがないでしょう？」

奏「そんな、そんな理由で！」

武「そんな理由じゃない。本来お前らはここから一生出られないんだよ。法律で決まってる」

武、凧を見る

武「というわけであなたたちも国に反逆したことになりますけどそれでも」

凧「うるせえ」

凧、武を思いつきり殴る

武、気絶する

凧「んなことあの子に聞かすな。耳が腐る」

外から自転車のベルが聞こえる

奏、外を見に行く

○シーン16 孤児院前 (レンタルルームの近くの教会)

華が自転車のベルを思いつきり鳴らしている

奏「自転車？」

華「乗りな！」

奏、ふと横を見る

モブたち、恐る恐る中を覗いている

モブたち、奏に気付く

奏、モブたちに近づく

奏、しゃがんでモブたちを一発ずつ殴る

奏、立ち上がる

奏、微笑む

奏、手を振る

奏「ばいばい」

奏、華に駆け寄る

華「ナイスパンチ」

華、奏とグータッチ

凧、二人に追いつく

凧「え？チャリで逃げるの？」

華「私ら免許なんて持ってないじゃん」

凧「あ、そうか」

凧と華、自転車に乗る

奏、凧の後ろに乗る

華「よし！ぶっ飛ばすよ！」

凧「おっしゃ！」

三人、チャリで爆走

凧と華、笑いながらチャリをこいでいる

奏、笑いながら不安そうな表情

○シーン17 凧と華の隠れ家 (会議室2)

凧と華と奏、フラフラで入ってくる

三人、肩で息をしている

凧「これからどうする？」

華「どうしようね」

奏、凧と華を交互に見る

凧「お？悪いかな？無計画で悪かったな」

華、笑う

華「まあ案外こんなもんだよね」

凧「まあでも」

凧、奏を見る

凧「君のことぜってえ見捨てねえから」

奏、凧を見ている

華「そういやさ、喋らないの？」

奏、驚いて華を見る

華「声出していいよ」

凧「お前いつの間に」

華、お金のジェスチャー

華「さっきちよつといっぱいお金積んどいた」

凧「分かりにくい日本語だな」

奏「あ、あー」

凧と華、奏を見る

奏「ほ、ほんとだ」

奏、笑っている

奏「ほんとに、声が……」

奏、うつむく

奏「結にも、僕の声聞かせてあげたかったな」

凧「そのことだけど、生きてるかもしれないぞ」

奏「え」

華「まだ遺体が見つかっていないらしいんだよね」

凧「だから、探しに行こう。結ちゃんも救って、結ちゃんの声も取り戻して、そんで」

凧、にやりと笑う

凧「この腐った世界変えちまおうぜ」

華「どうせ国家反逆するならでっかくいかないとね」

奏「そんなめちゃうかな」

凧「どうせ言葉にできるならポジティブな方がいいだろ？」

奏「たしかに……？」

華「そういやさ、君の名前はなんていうの？」

奏「ああ、奏っていいいます」

華「いい名前だね。私は華」

凧「俺は凧。よろしくな」

三人、握手する

奏「あの、凧さん、華さん」

凧と華「ん？」

○回想

凧「どうせ言葉にできるならポジティブな方がいいだろ？」

○回想戻り

奏、微笑む

奏「ありがとう」

凧と華、微笑む

凧と華「どういたしまして！」

終わり